

越境人

2012
WINTER vol. 5

コリア国際学園 広報誌

特集1

教員座談

教員から見たKIS教育の可能性とは

特集2 KIS、京都造形芸術大学と連携協定を締結

特集3 座談会 第2期卒業生の学んだこと、伝えたいこと。

■ スペシャルトーク 生徒自身による制服論議を始める前に

— 校長から生徒の皆さんへの呼びかけ 校長 厳徹俊



2 特集1・教員座談	15	NEWS REPORT
教員から見たKIS教育の可能性とは		秋晴れの一日、フットサルを通じて国際交流 テコンドー部、大会・国際交流の集い などで大健闘！
9 特集2 KIS、京都造形芸術大学と連携協定を締結		
10 特集3・座談会	16	Activity Report
第2期卒業生の学んだこと、伝えたいこと。		教養・Liberal Arts科 授業訪問記⑤ 哲学カフェ in KIS 訪問記
12 NEWS REPORT	18	スペシャルトーク 校長 厳敵俊
夏休みを活用し続々と韓国での教育・社会プログラムに参加 地域の小学校との交流活動を活発に取り組む 第4回文化祭／体験学習（梅花女子大学）		生徒自身による制服論議を始める前に 一校長から生徒の皆さんへの呼びかけ



越境人 2012年冬 第5号
 発行日 2012年2月24日
 発行 校舎法人コリア国際学園
 〒567-0057 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号
 TEL:072-643-4200 FAX:072-643-4401
 E-mail:contact-school@kis-korea.org http://www.kis-korea.org/
 ※越境人は年2回の発行です。※本誌記事を無断で転載等する事を禁じます。



速報! 大阪駅前第1ビル5階に 土地・建物・マンション等々 売却依頼募集中!

イルソーレシリーズ好評分譲中!

自由設計
お好きな建築プランでお建てください。
女性設計士と建てる家

他にもホームページには分譲地等の不動産情報が多数掲載されています。
不動産のことならお気軽に問い合わせください。

代理店・販売協力店 MISAWA international 200年住宅 HABITA ネットdeすまい エスパシエル 廉価販売店

（社）全日本不動産協会会員 （社）不動産保証協会会員 （社）近畿地区不動産公正取引協議会加盟 ■宅建免許／奈良県知事(2)3522号 ■建設業免許／奈良県知事(般-19)14196号
 本社 奈良県吉野郡大淀町北野137番地の20
 TEL : 0746-34-5688
 檜原店 奈良県橿原市内膳町5丁目6番29号(サンリピキャトル1F)
 TEL : 0744-21-7577

分譲・仲介・新築・リフォーム・賃貸

株式会社 山崎ハウジング

<http://www.yamazakihousing.com>

検索



教育理念

多文化共生

民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。

人権と平和

人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。

自由と創造

真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

21世紀の国際社会は、グローバル化と情報化が加速する一方で、政治・経済・社会・文化のあらゆる面において、解決すべき人類共通の課題にも直面しています。とりわけ東アジアは、その集約的な地域のひとつとしてダイナミックな変化が予見される歴史的な転換期にあります。

こうした時代状況を未来に向けて切り拓いていくためには、なにより個性と多様性の尊重を基礎とした創造力の溢れる人間が求められています。言い換えれば、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間の育成にほかなりません。

コリア国際学園（KIS）は、在日コリアンをはじめとする多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に考え学ぶことができ、かつ確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として複数の国家・境界をまたぎ活躍できる、いわば「越境人」の育成を目指します。

コリア国際学園（KIS）は、すべての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、コリアにつながり、世界に開かれた国際学校として、世界と東アジアの持続可能な発展に貢献します。

◆ 校章・シンボルマーク ◆



目であり
宇宙であり
太陽であり地球であり
そして みつめていて、考えていて
そして いつも ゆれている

◆ デザイン・文 ◆

黒田 征太郎 Seitaro Kuroda
(イラストレーター)

くろだ・せいたろう ● 1939年大阪府生まれ。
'92年にNew Yorkへ移住。イラストレーターとしてポスター、挿し絵で数々の賞を受賞するなど幅広いアーティスト活動を展開。
コリア国際学園の発起人のひとり。

◆ コメント ◆

色は 中心が 赤（火）（光）
その外が 黄（アジア）
その外が 草色（地）
その外が 青（天であり水）
としました

教員から見た

越境人

教員座談

KIS教育の可能性とは

昨年(2011年度)コリア国際学園(KIS)に赴任した経験豊かで個性あふれる4人の教員たち。その教員たちから見た生徒の印象、KIS教育の可能性や夢について語っていただいた。豊富な他校での教員生活を経て、いわば「外部」の視点から辣腕の教員たちがKISの特性を浮き彫りにする。



金正泰 (キム・ジョンテ)

教頭、理数科教員。朝鮮学校教員を経てNPO法人次世代支援グローカルネット理事長。東アジアの平和のためのオリニ希望学校日本担当運営委員。



池田千丈 (いけだ・せんじょう)

高等部主任、進路開拓部主任、社会科教員。曹洞宗僧侶。慶應義塾大学法学部法律科卒。海外(欧州)と日本におけるインターナショナルスクールに長く勤務。



李鉉淑 (イ・ヒョンスク)

高等部1年生担任、コリア語科教員。韓国出身。立命館大学大学院言語教育情報研究科修士課程修了。日本、香港での教員生活を経験。



廣田景一 (ひろた・けいいち)

保健体育科教員。神戸国際大学サッカー部監督。順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科卒。日本サッカー協会公認A級コーチ。NPO法人レーヴェン理事。

廣田 体育の授業で感じたことです
が、何より先輩の後輩に対する面倒見の良さが抜群ですね。高等部3年の女子生徒が高等部1年の男子生徒のことを叱りながら面倒を見たりします。高等部の生徒が中等部の生徒たちを手厚く面倒を見るんですね。他の学校では見られないですね。
2つ目は、KISの生徒は他者の成功を素直に喜ぶことができます。他人の成功に対しても無関心ではなくて、すぐに反応があるんですね。インターナショナルスクールの先生をやっていると感じます(笑)。
3つ目は、こちらが受け入れた分だけ、生徒が僕を受け入れてくれます。この感受性って何ですかね。他の学校の生徒の場合、こちら側が受け入れても多くの場合それで終わります。
最後は、KISの先生方のこれまでのスキルアップに向けた努力の総量ですね。多言語を流暢に話される先生方が多い。簡単なことではないと思います。その辺りの隠れた凄さを感じます。

金 一言でいえば、生徒たちが素直なことがあります。

また、KISの生徒には、「自主性」を持って生徒同士で問題を解決しようとする努力が見られます。ある生徒から、「クラスにはこういう問題があつて、こうして解決したけどなかなか難しい」という悩みを聞いたことがあります。単に「クラスの姿がKISでは普通の光景です。」

李 朝から真剣に討論をしましようとしたが、賛成ですか。反対ですか」と聞きました。なぜなら、KISの生徒たちは自分のことを自由に考へ、表現します。象徴的に面白かったのは名前についてです。KISにはコリアンと日本人のダブルの生徒がたくさんいますが、民族名を使っている生徒も日本名を使っている生徒もいます。それぞれに理由を尋ねると、一番自分らしくいられる名前

廣田 体育の授業で感じたことです
が、何より先輩の後輩に対する面倒見の良さが抜群ですね。高等部3年の女子生徒が高等部1年の男子生徒のことを叱りながら面倒を見たりします。高等部の生徒が中等部の生徒たちを手厚く面倒を見るんですね。他の学校では見られないですね。

2つ目は、KISの生徒は他者の成功を素直に喜ぶことができます。他人の成功に対しても無関心ではなくて、すぐに反応があるんですね。インターナショナルスクールの先生をやっていると感じます(笑)。

3つ目は、こちらが受け入れた分だけ、生徒が僕を受け入れてくれます。この感受性って何ですかね。他の学校の生徒の場合、こちら側が受け入れても多くの場合それで終わります。

金 一言でいえば、生徒たちが素直なことがあります。

また、KISの生徒には、「自主性」を持って生徒同士で問題を解決しようとする努力が見られます。ある生徒から、「クラスにはこういう問題があつて、こうして解決したけどなかなか難しい」という悩みを聞いたことがあります。単に「クラスの姿がKISでは普通の光景です。」

李 朝から真剣に討論をしましようとしたが、賛成ですか。反対ですか」と聞きました。なぜなら、KISの生徒たちは自分のことを自由に考へ、表現します。象徴的に面白かったのは名前についてです。KISにはコリアンと日本人のダブルの生徒がたくさんいますが、民族名を使っている生徒も日本名を使っている生徒もいます。それぞれに理由を尋ねると、一番自分らしくいられる名前

生徒は教員にアドバイスは求めても、
答えを求めたりしない。
自分なりに悩んで自主的に解決しよう
という姿勢が強い。(李)

KISの学校文化とも言えるのでは
ないかと思います。

また、KISの生徒には、「自主性」を持って生徒同士で問題を解決しようとする努力が見られます。ある生徒から、「クラスにはこういう問題があつて、こうして解決したけどなかなか難しい」という悩みを聞いたことがあります。単に「クラスの姿がKISでは普通の光景です。」

生徒の「積極性」はコリア語科の授業でも見られます。コリア語科の高等部の授業では、主に、外の世界で起きている社会・国際問題を取りあげ、そのテーマをもとにディベートを行ったり、調べて発表したりする授業をしました。ほとんどの生徒は、自分の意見を相手に納得させるのに必死でした。意見を述べたり、反論を提起したりするときは、先輩も後輩も忘れます。論理的に欠け、感情的になりうる討論の場でも、しっかりと自分の意見をまとめて積極的に主張する姿が印象に残っています。新しい課題や問題に直面したとき、このような積極性は欠かせない

であることです。自分自身の教員生活の中でも、皆がこうした雰囲気を持っている学校は初めてです。KIS自体が開校4年目の若い学校ですので、生徒たちが保護者や教職員と一緒にになって新しい学校の歴史と伝統を創っていくという雰囲気があります。生徒がKISのことを大好きでKISがうまくいけば喜ぶし、自分のやりたいことより、KIS全体のことを考える学校文化があります。

もう1つは、自分をとても素直に表現できる雰囲気が学校全体にあります。私は在日コリアンとして生まれたので、肩肘を張りながら「在日」はどう生きるべきかを常に考えながら生きざるをえませんでしたが、KISの生徒たちは自分のことを素直に表現できますね。

私自身は民族的に生きるのか、日本に同化して生きるのかという二極対立で考えがちでした。でもKISの生徒たちは自分のことを自由に考へ、表現します。象徴的に面白かったのは名前についてです。KISにはコリアンと日本人のダブルの生徒がたくさんいますが、民族名を使っている生徒も日本名を使っている生徒もいます。それぞれに理由を尋ねると、一番自分らしくいられる名前

だからだそうです。考え方を選択させる雰囲気がKISにはあります。大人や世間のルールでこう生きなければならないというのではなく、自分で素直に変えていくことができるので、世間的で生きることもあると思います。すごく新鮮でしたね。こうした子どもの素直さは、世代的な面に起因することもあると思いますが、やはりKIS特有の学校文化だと思います。

李 「Sensei, What's your favorite movie?」と英語の宿題のために質問をしたり、「先生、TTP(自由貿易協定)問題についてどう思いますか。賛成ですか。反対ですか」と朝から真剣に討論をしましようとしたが、賛成ですか。反対ですか」と聞きました。なぜなら、KISの生徒たちは自分のことを自由に考へ、表現します。象徴的に面白かったのは名前についてです。KISにはコリアンと日本人のダブルの生徒がたくさんいますが、民族名を使っている生徒も日本名を使っている生徒もいます。それぞれに理由を尋ねると、一番自分らしくいられる名前

は、先生に質問をしに来る生徒の姿が常に見られます。疑問に思うことや授業で分からぬ問題については、何回も先生のところに来て聞く姿、またそれにまじめに答える教員の姿がKISでは普通の光景です。生徒の「積極性」はコリア語科の授業でも見られます。コリア語科の高等部の授業では、主に、外の世界で起きている社会・国際問題を取りあげ、そのテーマをもとにディベートを行ったり、調べて発表したりする授業をしました。ほとんどの生徒は、自分の意見を相手に納得させるのに必死でした。意見を述べたり、反論を提起したりするときは、先輩も後輩も忘れます。論理的に欠け、感情的になりうる討論の場でも、自分の意見を言うときも、勉強するときも、自分の意見を言うときも、無茶なことをするとき(?)も何かと「積極性」を感じられます。教員室でもあります。休みの時間や放課後になると、自分の意見をまとめて積極的に主張する姿が印象に残っています。新しい課題や問題に直面したとき、このような積極性は欠かせない





に○○問題があつて、いやです」ではなく、自分なりに解決しようと努力をしているが、まだ解決には至つてないとのことでした。その生徒は、問題を認識してからずいぶん長い間悩んでいましたし、今も悩んでいるかもしれません。しかし、教員にアドバイスは求めて答えを求めたりしません。自分なりに悩んで自己的に解決しようという姿勢が強く感じられます。その悩みの過程からその生徒は成長していくと思います。

池田 僕は、よく生徒たちに「学校では意見を聞いてくれるし、待つてもくれる。社会に出るとそうはいかない。黙つていれば、同意したと思われる。で、君はどう思う?」と問う

ます。KISの生徒たちの一番いいところは、自分の意見を表明することができます。それに慣れていけることか。自分の意見を表明することが当たり前なんです。僕が授業中に話すことの「漏れ」を生徒から指摘されたりして、ドキッとしたります。自分なりに生徒からの意見や質問を授業前に想定しますが、いつも想定「外」の質問や意見が出されます。僕はそれが嬉しくて仕方がない。「表情がある学校」というのがKISの印象です。

社会科で取り扱う問題は基本的に「他人事」です。その「他人事」の「問題」の中で、例えば、「けしからん話」をした時には、生徒はけしか

から外れるなどという意味です。心身を壊すところまで頑張るなどということと。無茶とは、限界のリミッターを越えることです。「無茶苦茶やなあ、おまえは」というのは限界を打ち破ること。「越境人」とは、次々に立ち現れる限界や壁をぶちやぶつしていくことだと思います。

限界を越えて闘う姿勢を持つ、限界を越えて勉強する、限界を越えて人と何かを創り上げていくことを是非やつてもらいたい。僕自身もそれをやらないと生徒たちには伝わらないと思います。道理やマナーとは、人と人の間を大切にすることと人をシンプルなことです。

李 建学の精神である「越境人」という言葉を聞くと、「国境を越える」「世界人」「国際人」などの言葉が浮かぶかもしれません、それは、結果に過ぎない気がします。そのためにどんな過程が必要なのか、生徒に何を教えていくことが大切なのかを考え

なければなりません。単に様々な言語がてきて、世界の人々と話ができるだけではないという意味です。

私が考える越境人とは、外の世界（学校、社会、国、世界）に向けて自分の言葉で自分の考えを発信し、そこから見えてくる自分を知り、前に進むことができる、成長していく人だと思っています。それができる人こそが、世界の違う文化圏の人と接したときに、柔軟に対応できると思っているからです。つまり、自分を取り囲む様々な環境の中で、他者と出会うことにより新たな自分に出会う、または新たな自分を見つけることができるということです。KISで、そういう「越境人」になる態度やスキルを学んでほしい。

金 昨年（2011年）4月、韓国から留学生がKISに入学しました。1ヶ月もすると日本で生活してきた生徒と留学生がともに自己主張をしました。互いの「常識」がぶつか

から外れるなどという意味です。心身を壊すところまで頑張るなどいうこと。無茶とは、限界のリミッターを越えることです。「無茶苦茶やなあ、おまえは」というのは限界を打ち破ること。「越境人」とは、次々に立ち現れる限界や壁をぶちやぶつしていくことだと思います。

なければなりません。単に様々な言語がきて、世界の人々と話ができるだけではないという意味です。私が考える越境人とは、外の世界（学校、社会、国、世界）に向けて自分の言葉で自分の考えを発信し、そこから見えてくる自分を知り、前に進むことができる、成長していく

りだした。それを見ていて私は非常に面白かった。私が経験してきた日韓市民交流事業でも、腹を割つて一緒に仕事ができるようになるまで2年かかった。こうした経験を早い時期から経験することはとても大事なことだと思います。

KISも開校当初の3年間より、4年目の今年度（2011年度）は学校として多くの有益な経験をしていくのではなか。学校生活を通じて相手を思いやることを、日々考えざるを得ない状況にあることは、実はコミュニケーション力を高めていくうえで、とても良い環境にあるとも言えます。小さな学校ですが、大きな社会の縮図であります。

池田 「居場所のない若者たち」というテーマについて、生徒たちと議論したことがあります。ある生徒は、「テレビで、その原因を家庭と地域コミュニティの崩壊って言っていたけれど、自分はそう思わない」と。

K I S M 開校当初の 3 年間より、ことだと思います。緒に仕事ができるようになるまで 2 年かかりました。こうした経験を早い時期から経験することはとても大事なことだと思いました。

と価値観がぶつかり合ってスパークして、より創造的な価値観が生み出されます。毎日問題が起きるのが当たり前というのが僕のインターなしヨナルスクールでの経験則的なイメージなのですが、受け入れてくれる度量の広さはいいのですが、反面「平和」すぎるという面があるのです。

廣田 僕はKISの生徒自身は他校

勇気がいるものです。KISの場合
は生徒が「カモーン」です。「先生座つ
て。話しよう」って感じかな。

— 教員として大切にしている
もの、生徒に伝えたいことは

廣田 生徒には「無理するな、無茶
しろよ」と言いたい。無理というの
は人間としての道を外れるな、道理

は他校の生徒と
徒を取り巻く関係性の
違う。(廣田)

K-I-Sの生徒自身は他校の生徒と
基本的に変わらない。
ただ、K-I-Sの生徒を取り巻く関

勇気がいるものです。K I Sの場合
は生徒が「カモーン」です。「先生座つ
て。話しよう」って感じかな。

— 教員として大切にしている
もの、生徒に伝えたいことは

廣田 生徒には「無理するな、無茶
しろよ」と言いたい。無理というの
は人間としての道を外れるな、道理

徒を取り巻く関係性の
い。



K-I-Sはコミュニケーション力を高めていくうえで、とても良い環境にある。小さな学校だが、大きな社会の縮図もある。（金）

「長い封建的な家庭と地域の因習を破壊し、『R e 創造』することで新しい価値観がようやく生み出され、その結果、『副産物』として、居場所のない若者たちが出てきた、あるいは、出てきてしまったのではないか。單純に昔の家庭やコミュニティに戻れ

らん顔をするんです。悲しい事件の話をすると、眉間にしわを寄せて悲しそうな顔をするんです。高等部の生徒も、そうした素直な表情を見せるので、こちらも適当な授業の準備では済まされません。僕としては授業がとても楽しみですね。

いい意味で、何事にもあまり制限を設けていないという印象をこの学校に感じます。居心地の良さを提供してくれる。一方でインターなしヨナルスクールとして、果たしてそれでいいのかなども感じます。価値観の生徒と基本的に変わらないと思いません。ただ、KISの生徒を取り巻く関係性の豊かさがまったく違います。教員との関係性、先輩・後輩との関係性、校長室に生徒が入れますか。校長が生徒と自然に話をする、教頭が生徒と一緒になってピースをしている。普通の高校ではありえないでしょ。他の子どももKISに入れば、そうなつていく関係性の糸があるのが素晴らしい。

金 そうですね。普通昼休みや休憩時間に教員が教室に入る時は、結構

ばいいという話ではない」と言うわけです。新しい価値観とは何か、と問うと生徒たちは、「ゴチャゴチャ言つていました」が、要するに、自由と個人主義と価値観の多様化（国際化、グローバル化……）じゃないか、と。直感的な意見にしては、いい線いつてるでしょ。

生徒たちは「考える」んです。僕が教師として大切にしていることは、答えをすぐに求めないことです。いわゆる偏差値の高い生徒であれば、ウイキペディアで調べ、体系的にきれいにまとめて出してくる。KISの生徒は、必死になつて、うまくなくとも自分の経験や知識を集めて・絡めて、自分の言葉で語ります。

こういう雰囲気の中で、今KISが「UNESCO—ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）」のパリ本部に申請・審査中の「ユネスコスクール」のボリシーの一つ、「ESD: Education for Sustainable Development（持続発展教育）」へつながつていけば、KISという存在が、日本全体、そしてアジア・世界に対し、よりメッセージ性を帶びていくこと、まちがいないでしょ。そうすれば、考え、思考できるKIS生たちの活躍の場が広がっていくでしょ。そう

が、なんやかや言つても、相互理解のためには、とにもかくにも「話し合う」ことが不可欠ということなんです。手っ取り早く教師が介入すれば良いのでしょうか。僕は「待つ」という姿勢を貫いた金教頭の方向性を支持したいと思います。「待つ」ことは、しんどいけれど、教師の大切な姿勢の一つだと思います。KISはさまざまな人や経験に出会うことがとても大切だと思っています。

金　　さまざまなものや経験に出会うことができないでしょ。そこで何か事件があれば心配もしない。興味を持つべき背景を知らないとします。釜山に友人がいるから、そこで何か事件があれば心配もする。日本で地震があれば、ロシアで暮らす友人からも安否を気遣う電

話もある。単純なことですが、出会つて、友だちになることが重要です。

大きな時代の転換期の中で、その特徴を一言でいうのは難しい。重要なことは、時代の変化に適応して成長していくことです。ただ、その際に自分自身について知らなければならぬ人が、他者も好きになれ、大切にできる。

時代の変化の中で、こちらとあちらという新しい境界は、いろんな分野領域でますます増えています。境界はたくさんあるのに、それに無関心を装つたり見えていない人が、実はほとんどではないでしょ。K

自分の考えをしつかり表明する一方で、相手の意見にも、ただただ「静かに」耳を傾ける力をつけてほしい。（池田）

考えると、ワクワクできませんか。

時代の転換期の中で、子どもたちに育んでほしい力は

廣田　喧嘩や対立は、人間社会ならどこにでも起ります。その時に「越境人」としてのふるまい方とはどう

いうものかを考えいくチャンスであると思います。いろんな問題が起こればいいんですよ。ただし、今起っている現象は何であり、ありたい姿は何かが明確でなければ、ただの喧嘩、対立になる。

KISの生徒には、誇り高い人間に成長していって欲しい。その生き方の根本は、今ある自分を謙虚につめること、ターゲットを明確に持つことです。その環境を作りたいと思います。

池田　自分の考えをしつかり表明する一方で、相手の意見にも、ただただ「静かに」耳を傾ける力をつけてほ

ります。

KISの生徒には、誇り高い人間に成長していって欲しい。その生き方の根本は、今ある自分を謙虚につめること、ターゲットを明確に持つことです。その環境を作りたいと思います。

アジアインターナショナルスクールという日本にまたとない学校を創るチャレンジをしたい。（金）

ISの建学の精神にある境界をまたぐためには、それがあることをまず認識することが前提であると思います。そのためには自分についてしっかりと学ぶことが必要です。

ISの建学の精神にある境界をまたぐためには、それがあることをまず認識することが前提であると思います。そのためには自分についてしっかりと学ぶことが必要です。

—KISの将来や夢について

池田　インターナショナルスクールと言うと、西洋的、特にアメリカ的な価値観と言語習得に集約される形で終わりがちです。

また、こちらは安全、あちらはリスクがある、という問題解決策としての二者択一条件。リスクのある選択を避けるためには、別の、「第3」の方法もあるかもしれない。そこで、リスクとは何か、それを解決するためにはどうすればいいのか、を考える必要がある。リスクがあれば受け入れれば、どんなメリットがあ

しい。私がかつてヨーロッパのイン

ターナショナルスクールにいた時の話。91年の湾岸戦争時にイラクの生徒とクエートの生徒が、戦争の「実況中継」を寮のテレビでいつしょに観ていたんです。二人は悲しんでいました。この戦争という状況にある母国を憂いながら、語り合っていました。そして、アメリカ側に立つ日本の国籍を持つ私に対し、「どことん話

し合う」文化が大切ということを真顔で訴えていました。

KISの寄宿舎で、韓国の留学生と日本の在学生がギクシャクした関係になった時、金教頭は、まずは自分たちで話し合い、解決するよう促しました。教員が互いの生徒を呼び出して、形式上の握手をさせて解決という予定調和的な方法ではなく、そこには当事者間で話をさせて教員はそれを見守るという姿勢がありました。これは時間もかかり、めんどうくさいことかもしれません



越境人 特集2 KIS、京都造形芸術大学と連携協定を締結

コリア国際学園（理事長：宋在星）と京都造形芸術大学（理事長：徳山詳直）の連携協定を締結するための調印式が、昨年（2011年）6月20日（月）、行われました。調印式には、京都造形芸術大学から横内敏人副学長をはじめ大学関係者が本学園を訪れました。



▲ 協定書を交換する嚴敵俊校長(左)と横内敏人副学長

韓国の留学生の母語は韓国語、日本在住の生徒は日本語。KISに入学を希望するネパールやバングラデッシュの保護者の要望も耳に届くようになってきています。受入れ体制の準備など課題は多い。その基礎をしつかり作った上でアジアインター・ナショナルスクールに発展できるのではないか。いずれにせよ、アジアインター・ナショナルスクールという日本にまたとない学校を創るチャレンジをしたいと思っています。

日常的な教育活動から言えば、生徒といろんな経験を一緒に共有したい。KISの先生は、「やりたがり」の先生が多い。哲学カフェの取り組みや春・夏休暇などに生徒を連れ出し

で研修に行ったり、学校外の教育資源を学校内部に取り込んでいくことで、多様な経験・体験を通して考えさせる教育活動を展開していきたいと考えています。

て、またKIDSの地域である茨木市
の豊川や北摂の隣人たちとより良い
関係を作っていくこと。私の立場な
ら、北摂人であり、関西人であり、
日本人であり、アジア人であること
に自信満々謙虚であります。娘

英語教育がメインに行われています。次に韓国語と中国語ですが、生 活言語である広東語を学校で習うことはないようです。そこにも何らか の「ことばの力関係」を感じます。

その理念を磨き続けることです。また、理念を共有し確認することです。2つ目は、K I Sの既存の学校としての境界ができるだけ低くすることです。もつと言えば、教員とは何かという点もぼやけさせることです。文化・アートやスポーツなどを通じて、越境人にふさわしい人間はどうあるべきなのかを考える機会を提供し、教員、生徒、地域の人たちが相互に学び発信しあえる関係性が具現できる学校になれば素晴らしいと思います。一方通行の学校ではなく、常に学び、教え、感動しあう共同体です。

数のアイデンティティがあることによって、誇りを持ち、人と人の間を大切にできる人間でありたいです。そして、国境を越えて、世代を越えて、さまざまな垣根を越えて、人と人の間を大切にできる人間が「育つ」学校、地域でありたいです。対話とスポーツと文化を使って。

李 K I Sは世界のあちこちにあるKorea International School、既存の民族学校やインターなショナルスクールの概念とは違う教育環境にあるような気がします。近くの多言語環境にある香港のKorea International Schoolだけを取りあげてみても、そこには、主に韓国の駐

人、日本人、韓国からの留学生が在籍していて、母語としてコリア語を学ぶ生徒、外国语としてコリア語を学ぶ生徒、第二言語として日本語を学ぶ生徒、外国语として英語を学ぶ生徒など、それぞれ違うルーツを持つた生徒らが共に学び合いの場を共有しています。そこで、生徒らは、単に「相手と違う」のではなく、相互の文化を理解し、認め合うことを学んでいくと思います。そうするためには、特定の言語や文化がマイノリティになつてはならないことを常に生徒に気づかせる教育活動が求められます。体験学習や多様な研修で様々な人々との交流を通して

シアインター・ナショナルスクールという日本にまたとない学校を創るチャレンジをしたいと思つています。日常的な教育活動から言えば、生徒といろんな経験を一緒に共有したい。KISの先生は、「やりたがり」の先生が多い。哲学カフェの取り組

島
アジアであることを理解した上
複数のアイデンティティ
あることに誇りを
人と人の間を大切
「育つ」学校であ

在員の子どもたちが在籍していく
イティイガ
持ち、
にできる人間が
たい。(廣田)

自分のアイデンティティを知り、他人者を受け入れることが大切だと思っています。そうすることによって、K I Sがマルチカルチャラリズム（multiculturalism）を実現する学校として、また生徒たちがその教育環境の中で「越境人」として成長していく

KHS、初の連携協定こ潤印

複数のアイデンティティが
あることに誇りを持ち、
人と人の間を大切にできる人間が
「育つ」学校であって。
(青田)

K-Sの全校生徒と教職員が参加する中、調印式で
嚴校長は、「今回の連携協定の締結によって、教育情
報の交流はもとより京都造形芸術大学の先生方による
出張講義を受けたり、またK-S生徒が造形芸術大学
を訪問する際に便宜をうけることができるようになります。もともと芸術・文化には国境がありません。そ
の意味で本学園と造形芸術大学には共通点があり、連
携協定を締結できたことを大変うれしく思います。今
日の協定の締結が両校の一層の発展に寄与することを
信じています」と語りました。

続いて、K-S学生会長の金基聖君が、「こうした
連携協力の機会を与えてくださった京都造形芸術大学
の皆様に心から感謝するとともに、その期待に応えて
いるよう一層勉学に励みたいと思います」と感謝の
言葉を述べました。

黄内敵人刑学長のあハキツ

その後、あいさつに立った横内副学長は、「コリア国際学園は、すばらしい建学の理念を持つています。国際的な視野を持ちつつ人権意識をしつかり持つた人材を育てていくこと、それは私たちの大学の理念と同じくしています。私たちの大学も創立20年の若い大学です。新しい学校同士でいろいろなことをやっていくと思います。私たちの学校の理念は、芸術やデザインを通じて世界平和に貢献していくことです。なぜなら、芸術やデザインは、国や言語や文化を越えて人間と人間との間でコミュニケーションできる力を持つて

京都造形芸術大学での体験学習に参加

「ふう」と思つからです。

今回の連携協定は、私たちの仲間が増えたという気持ちで大変嬉しいです。協定を結ぶことで、また新たな夢が広がりました。大学に来てもらつて韓国をはじめアジアからの留学生とも是非交流してほしい。今回の両校の連携協定の締結が、両校の発展だけではなくアジアや世界の平和にも貢献できるように願っています」と語りました。調印式終了後、大学の一一行は受講参観や尋ね合の見学などを行なってきました。

な横断幕と横内敏人副学長らの出迎えに、K.I.Sの生徒と関係者は驚きとともに、大感激の様子でした。

大学では、同大学情報デザイン学科の李尚宰准教授から「アニメーションと映像の表現について」映像資料を交えてのアートレクチャー」をテーマに講義を受けました。その後、キャンパスツアーに参加しました。最後に、表現教育推進室の石山潤先生による「クリエイションの社会的意味」京都造形芸術大学の教育の取組みについて」をテーマにした講義が行われました。これらの授業の根底には、「人は何のために勉強するのか」という生徒への真剣な問いかけがありました。生徒が自らのキャリアデザインを考えるうえで、とても貴重な機会となりました。今後一層の両校の連携と学びの広がりが期待されます。

